

SIMI

社会的インパクト評価イニシアチブ

Social Impact Measurement Initiative

2020年 VISION

2020年までに、社会的インパクト評価を広く社会に定着させ、社会的課題の解決を促進させます。
～12の目標と38のアクション～

社会的インパクト評価イニシアチブ 全体会合

2017年7月28日

SIMI

社会的インパクト評価イニシアチブ

Social Impact Measurement Initiative

2020年 VISION

2020年までに、社会的インパクト評価を広く社会に定着させ、社会的課題の解決を促進させます。

～12の目標と38のアクション～

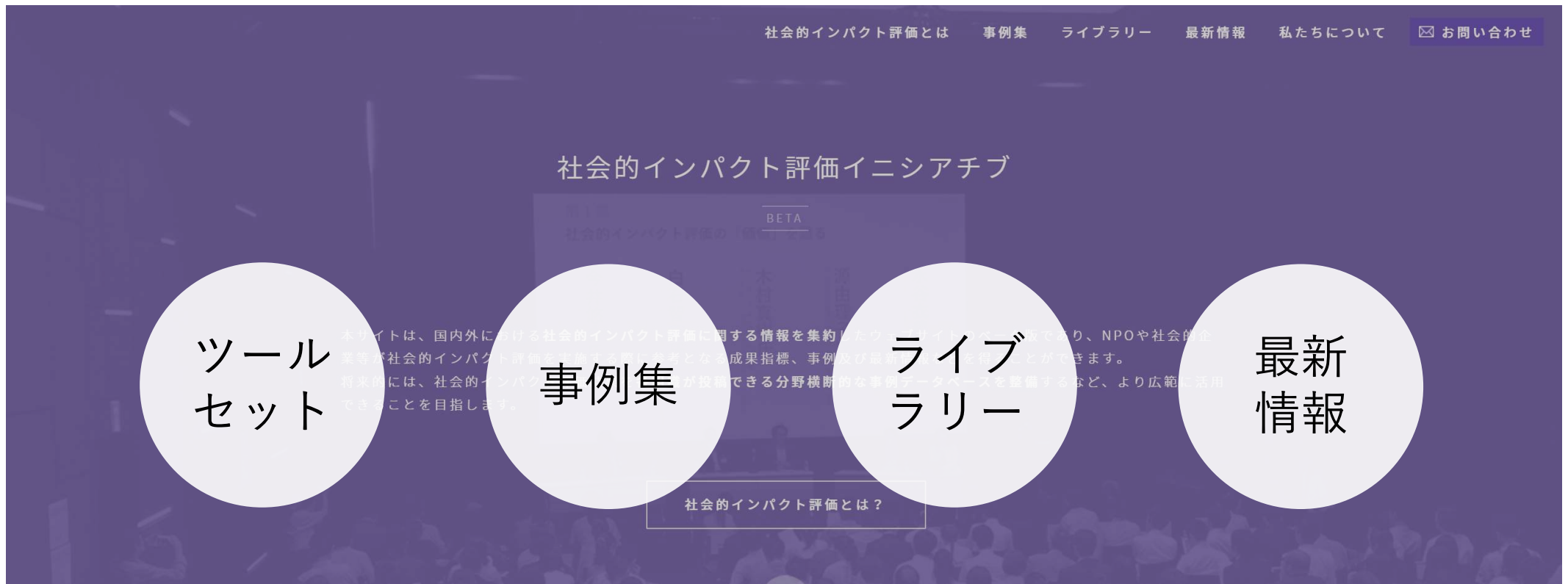
日本における社会的インパクト評価推進の現状について 一ロードマップ実現に向けた8つのアクションプラン

2017年6月29日

社会的インパクト評価イニシアチブ（SIMI）設立（2016年6月）

非営利または営利の民間事業者、シンクタンク、中間支援組織、資金提供者、研究者、行政などが連携して日本に「社会的インパクト評価」を普及させるためのマルチセクター・イニシアチブ。

（2017年6月現在 137団体）



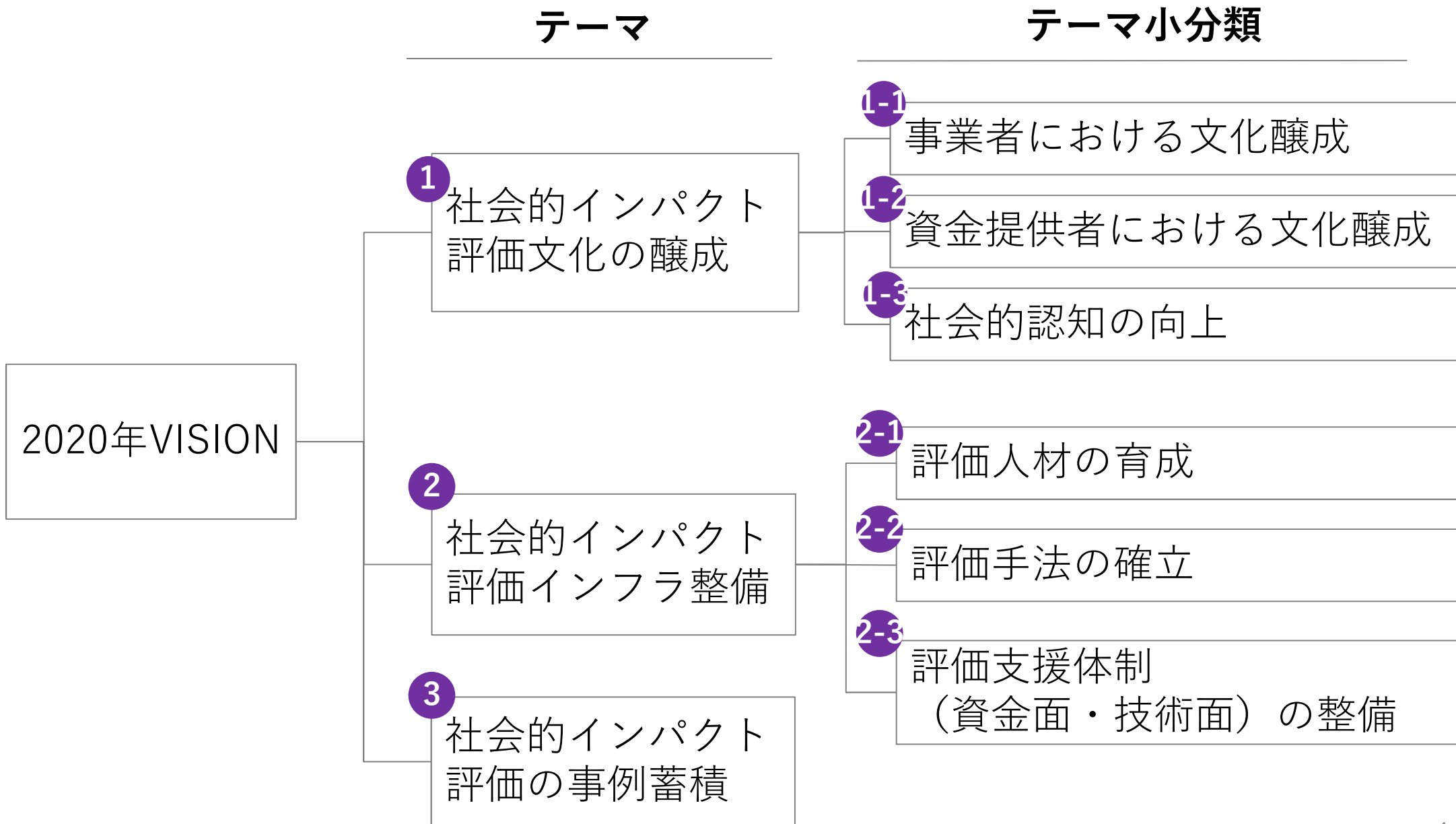
ロードマップ作成プロジェクト（2016年8月-2017年1月）

イニシアチブメンバー有志約30団体が参加した作業部会を中心に議論を重ね、発表。



2020年 VISION

2020年までに、社会的インパクト評価を広く社会に定着させ、社会的課題の解決を促進させます。



ロードマップ実現に向けたアクションプラン

2017年度は、ロードマップ実現に向けて8つのワーキング・グループを新たに設置し、それぞれのアクションプランを作成、実行していく。

No	WG名	対象テーマ (大分類)	対象テーマ (小分類)	幹事団体
1	インパクト 志向原則作成	文化醸成	事業者、資金提供者	SIMI事務局
2	資金提供者 ネットワーク	文化醸成 インフラ整備	資金提供者 評価支援体制の整備	資金提供者ネットワー ク
3	事業者ネットワーク	文化醸成 インフラ整備	事業者 評価支援体制の整備 (ピアネットワーク)	事業者ネットワーク
4	社会的認知	文化醸成	社会的認知	SIMI事務局
5	人材育成	インフラ整備	評価人材育成	日本評価学会、 日本NPOセンターなど
6	ガイドライン 作成	インフラ整備	評価手法の確立	SIMI事務局
7	アウトカム・指標作 成	インフラ整備	評価手法の確立	GSGNAB
8	事業の蓄積・活用	事例の蓄積・活用		ケイスリー

SIMI

社会的インパクト評価イニシアチブ

Social Impact Measurement Initiative

2020年 VISION

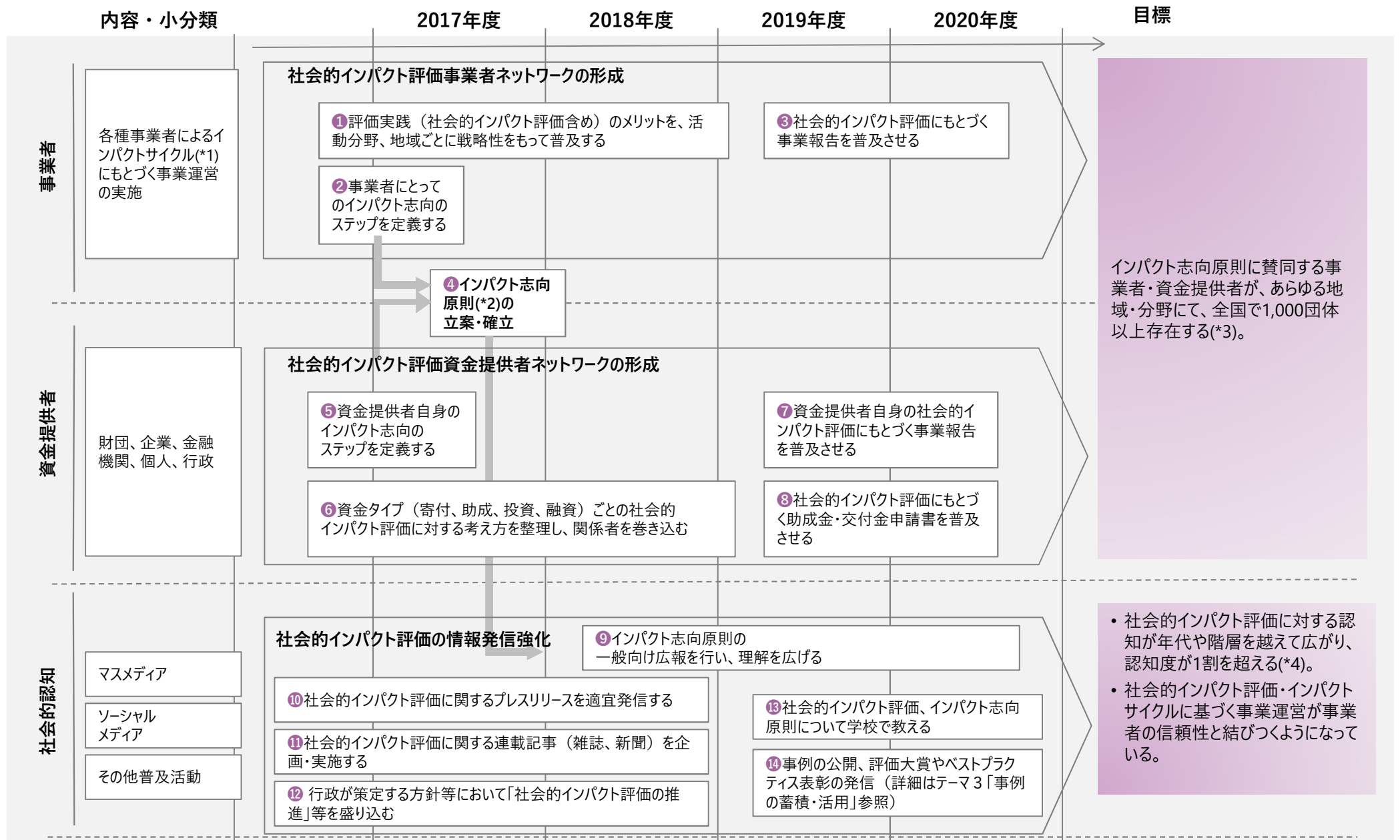
2020年までに、社会的インパクト評価を広く社会に定着させ、社会的課題の解決を促進させます。

～12の目標と38のアクション～

社会的インパクト評価イニシアチブ インパクト志向原則作成WG

2017年6月29日

1. ロードマップ（社会的インパクト評価文化醸成）



*1「インパクトサイクル」：計画-実行-測定-レビューという事業運営のサイクルをまわすことによって、インパクトを拡大させる方法を特定する、改善方法を学習するなど
の便益が生み出される事業運営。

*2「インパクト志向原則」：インパクト志向のあり方をさまざまなステークホルダーへの適用を想定して簡潔かつ明確に記した文書

*3：例えば、ホームページ上での賛同を募り、その団体数により目標を達成したかを計ることができる

*4：例えば、認知度調査等において社会的インパクト評価の認知について尋ねる項目を設けることにより、認知度の程度を計ることができる。

2. インパクト志向原則作成WGが2017年度に目指すこと・やること

目指すこと

- 「インパクト志向原則」の作成
インパクト志向原則：インパクト志向のあり方をさまざまなステークホルダーへの適用を想定して簡潔かつ明確に記した文書

やること

1. 他のWGと連携しながらインパクト志向のあり方を検討
 - 「資金提供者WG」「事業者ネットワークWG」との連携を中心に、さまざまなステークホルダーへインパクト志向のあり方を検討
2. インパクト志向原則の作成

SIMI

社会的インパクト評価イニシアチブ

Social Impact Measurement Initiative

2020年 VISION

2020年までに、社会的インパクト評価を広く社会に定着させ、社会的課題の解決を促進させます。
～12の目標と38のアクション～

社会的インパクト評価イニシアチブ アウトカム・指標作成WG（GSGNAB）

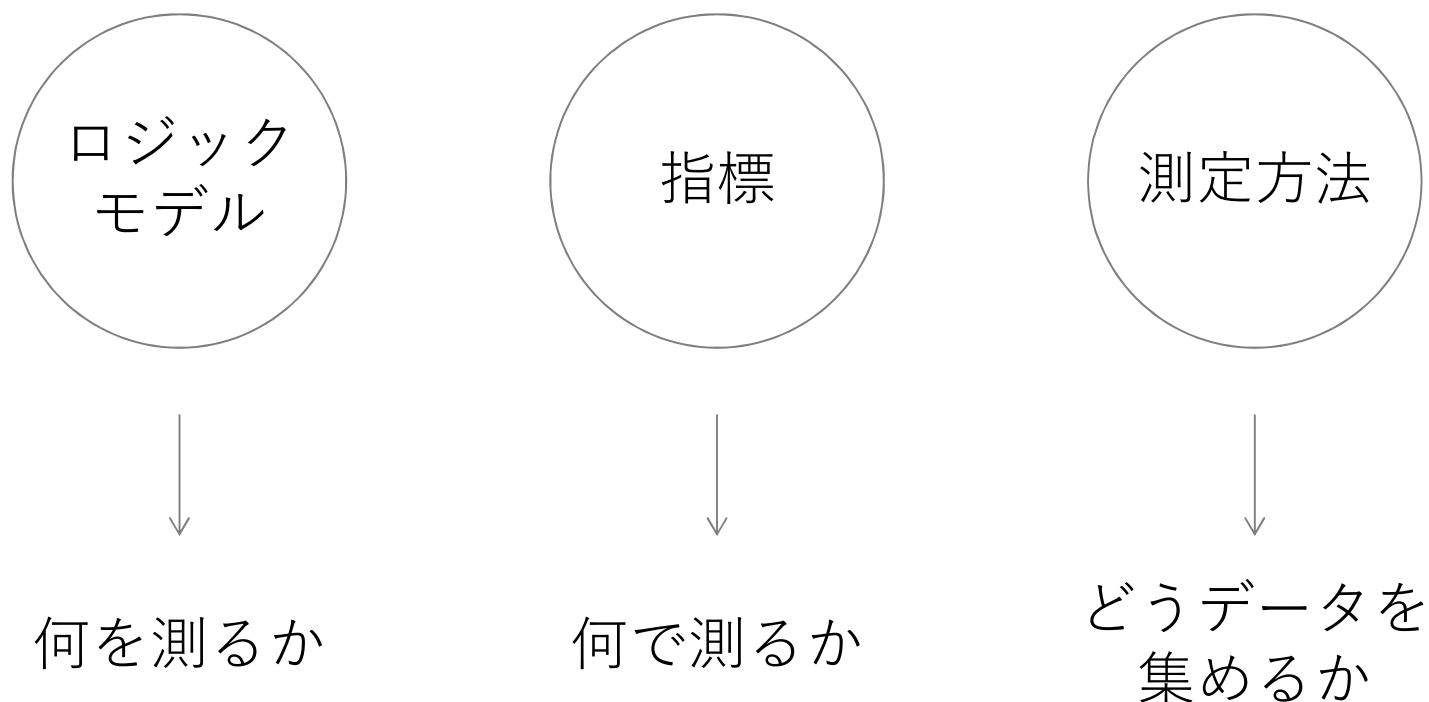
2017年6月29日

1. ロードマップ（社会的インパクト評価インフラ整備）



GSG社会的インパクト投資タスクフォース国内諮問委員会の取組み： 社会的インパクト評価ツールセット

ツールセットの3つの要素

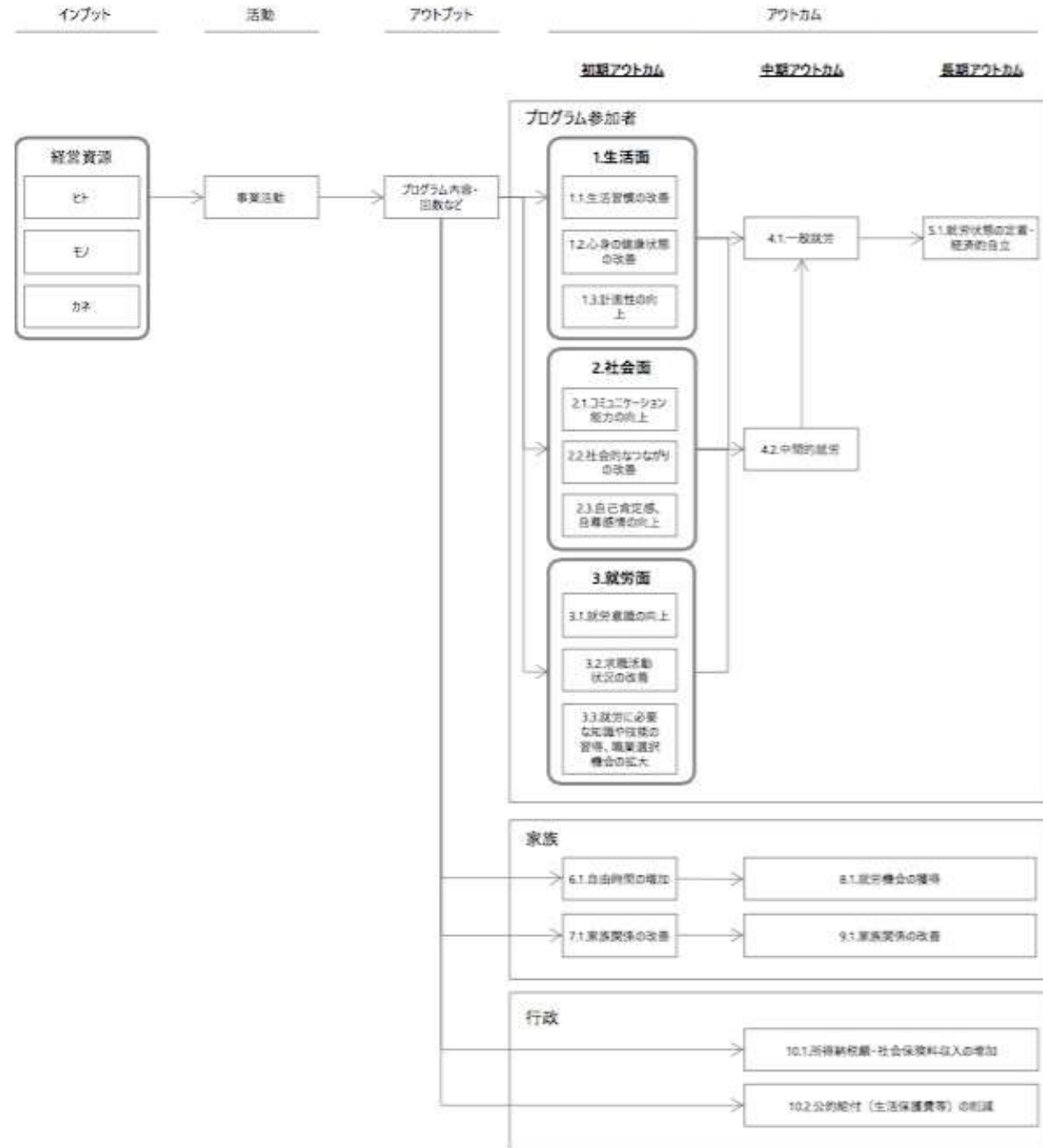


教育、就労支援、地域・まちづくりの3分野でVer.1を作成（2016年6月）

図表1：就労支援分野における一般的なロジック・モデル



何を測るか



*個々のアウトカムのグルーピングは、本ツールでは便宜上行っているもので、ロジック・モデルを作成する上で必須ではありません。

図表 7: アウトカム指標と測定方法の一覧の例 (就労支援事業)



何で測るか

ステークホルダー	アウトカムの種類	アウトカムのカテゴリ	詳細アウトカム	指標	測定方法 (掲載ページ)
プログラム参加者	初期アウトカム	1. 生活自立	1.1. 生活習慣の改善	生活リズムの改善	P.7
			1.2. 心身の健康状態の改善	体力・健康の改善	P.8
			1.3. 計画性の向上	計画づくりや目標設定の改善	P.9
		金銭管理の健全性の改善		P.10	
		2. 社会自立	2.1. コミュニケーション能力の向上	コミュニケーション能力の向上	P.11
			2.2. 社会的なつながりの改善	友人・知人関係の改善	P.12
			2.3. 自己肯定感、自尊感情の向上	自己肯定感、自尊感情の向上	P.13
		3. 就労自立	3.1. 就労意欲の向上	就労意欲の向上	P.15
				働く自信の向上	P.16
	3.2. 求職活動状況の改善		求職活動状況の改善	P.17	
	3.3. 就労のための知識や技能の獲得、 職業選択機会の拡大		知識や技能の向上	P.18	
		選択機会の拡大	P.19		
中期アウトカム	4. 就業	4.1. 一般就業	就業形態と賃金の増加	P.20	
		4.2. 中間的就労	就業形態と賃金の増加	P.20	
長期アウトカム	5. 就業状態の定着	5.1. 就業状態の定着	3ヶ月後の就労定着状態	P.21	
家族	初期アウトカム	6. 自由時間の増加	6.1. 自由時間の増加	自由時間の増加	P.22
		7. 家族関係の改善	7.1. 家族関係の改善	家族関係の改善	P.23
	中・長期アウトカム	8. 就労機会の獲得	8.1. 就労機会の獲得	賃金の増加	P.24
		9. 家族関係の改善	9.1. 家族関係の改善	家族関係の改善	P.23
行政	中・長期アウトカム	10. 納税額・社会保険料徴収 の増加等	10.1. 納税額・社会保険料徴収の増加	所得税納税額の増加	P.25
			社会保険料徴収の増加	P.26	
		10.2. 公的給付の削減	公的給付（生活保護費等）の削減	P.27	



測定方法

どうデータを
集めるか

アウトカム 1.1. 生活習慣の改善

指標 生活リズムの改善

測定方法

出所：

障害者職業総合センター（2009）「就労支援のためのチェックリスト」

<http://www.nivr.jeed.or.jp/research/kyouzai/30.html>

「就労支援のための訓練生用チェックリスト」 pp.2-3

1. 起床、食事、睡眠などの生活リズムは規則正しい

1：生活リズムは規則正しくない。

2：生活リズムはあまり規則正しくない。

3：生活リズムはだいたい規則正しい。

4：生活リズムは規則正しい。

その他参考測定方法

① 厚生労働省社会福祉推進事業「生活困窮者自立支援法における就労準備支援事業評価ガイドライン」

<http://u-shien.jp/work2015/guideline/>

測定方法－アウトカムの測定方法－表5 アンケート票「1-1.生活習慣」

② 厚生労働省政策統括官付政策評価官室委託（2014）「健康意識に関する調査」

<http://www.mhlw.go.jp/stf/houdou/0000052548.html>

報告書 p.16

共通のアウトカム・指標・測定方法を活用するメリット

①評価を行う際の負担の軽減

②測定の信頼性の向上

③コレクティブ・インパクトに向けた協働の促進

今後の予定（2017年度）

1. 既存ツールのブラッシュアップ・継続的更新

- 実践マニュアル(vol.2.0)発表（公開済）
- 「教育」分野の更新のモデル（ver.2.0）発表（公開済）
- 「地域まちづくり」分野の更新モデル（ver.1.5）発表（公開済）

2. 新規分野でのツール作成

- 「文化・芸術」分野のツールセット発表（公開済）
- 「環境教育」分野のツールセット発表（公開済）
- **新規3分野の開発着手**（福祉、メンタルヘルス 等）（2018年3月発表）

3. ツールの活用促進

SIMI

社会的インパクト評価イニシアチブ

Social Impact Measurement Initiative

2020年 VISION

2020年までに、社会的インパクト評価を広く社会に定着させ、社会的課題の解決を促進させます。
～12の目標と38のアクション～

社会的インパクト評価イニシアチブ 資金提供者WG

2017年6月29日

1. ロードマップ（社会的インパクト評価文化醸成）



*1「インパクトサイクル」：計画-実行-測定-レビューという事業運営のサイクルをまわすことによって、インパクトを拡大させる方法を特定する、改善方法を学習するなど
の便益が生み出される事業運営。

*2「インパクト志向原則」：インパクト志向のあり方をさまざまなステークホルダーへの適用を想定して簡潔かつ明確に記した文書

*3：例えば、ホームページ上での賛同を募り、その団体数により目標を達成したかを計ることができる

*4：例えば、認知度調査等において社会的インパクト評価の認知について尋ねる項目を設けることにより、認知度の程度を計ることができる。

2. 資金提供者WGが2017年度に目指すこと・やること

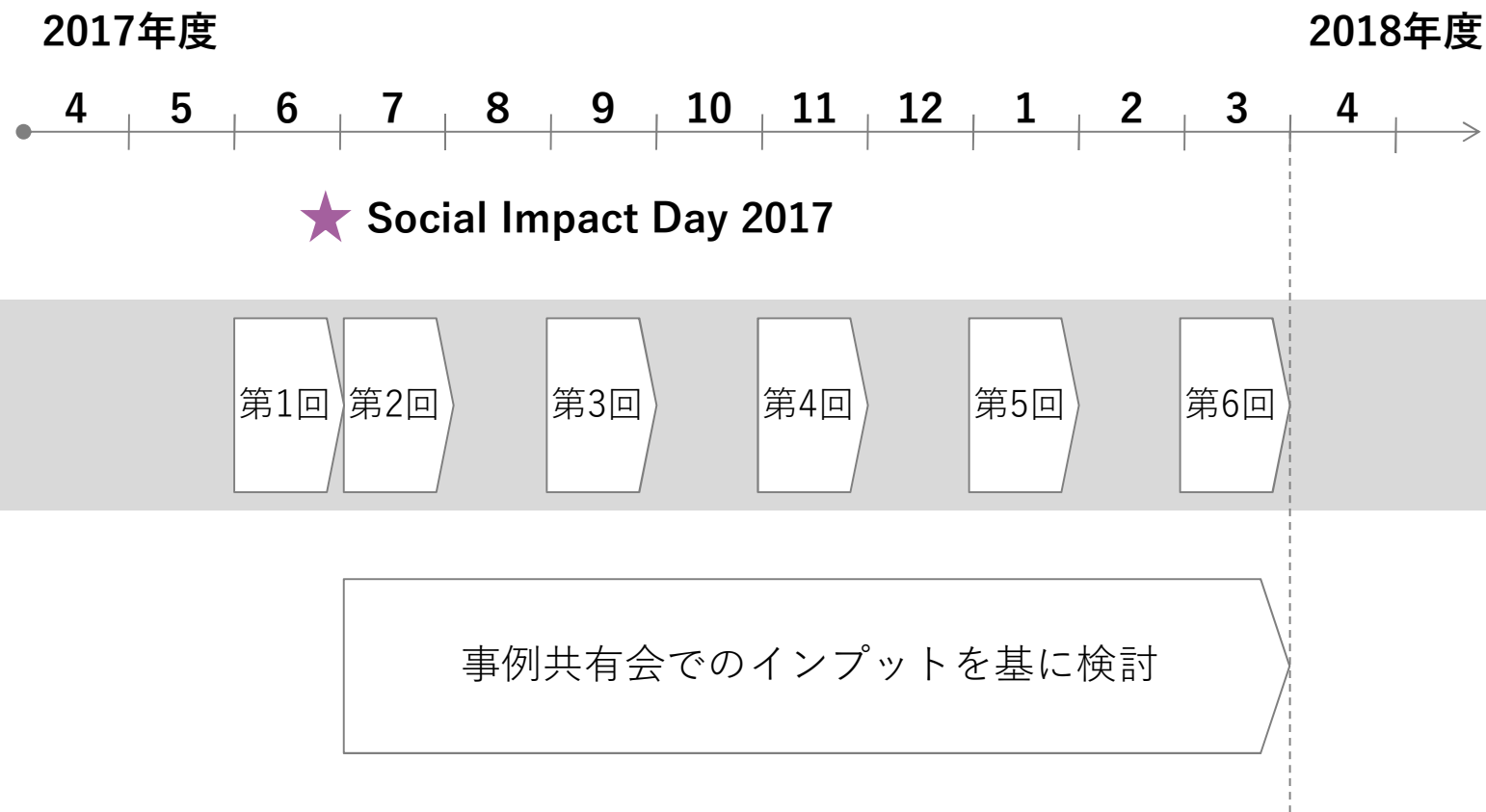
目指すこと

- 資金提供者にとっての「インパクト志向」のあり方の定義
- 「インパクト志向」に向けたアクションの検討・実施

やること

1. **WGメンバーによる事例共有会の定期的な実施**
 - 各資金提供者における審査/デューデリジェンス、事業管理、対外報告における社会的インパクト評価の実践事例を共有
2. **資金提供者にとっての「インパクト志向」のあり方の検討**
 - 上記事例共有会でのインプットを基に、資金提供者にとっての「インパクト志向」のあり方を検討
 - 「インパクト志向原則」策定への資金提供者WGとしての考えを提示するとともに、各組織がアクションを実施

3. 資金提供者WGのアクションプラン



4.資金提供者WGのコアメンバー

No.	氏名	所属
1	有井 安仁	一般社団法人全国コミュニティ財団協会
2	石崎 勇輝（オブザーバー）	株式会社日本政策金融公庫
3	加藤 剛	公益財団法人トヨタ財団
4	功能 聡子	ARUN合同会社
5	佐分利 応貴	公益財団法人笹川平和財団
6	高塚 清佳	新生企業投資株式会社インパクト投資チーム
7	高原 康次	一般財団法人KIBOW
8	土岐 三輪	特定非営利活動法人SVP東京
9	本城 宏行	独立行政法人環境再生保全機構（地球環境基金）
10	◎藤田 滋	公益財団法人日本財団
11	藤村 隆	特定非営利活動法人SVP東京

◎ WGリーダー

SIMI

社会的インパクト評価イニシアチブ

Social Impact Measurement Initiative

2020年 VISION

2020年までに、社会的インパクト評価を広く社会に定着させ、社会的課題の解決を促進させます。

～12の目標と38のアクション～

社会的インパクト評価イニシアチブ 社会的認知WG

2017年6月29日

マカイラ株式会社

1. 社会的認知WGの2020年度目標

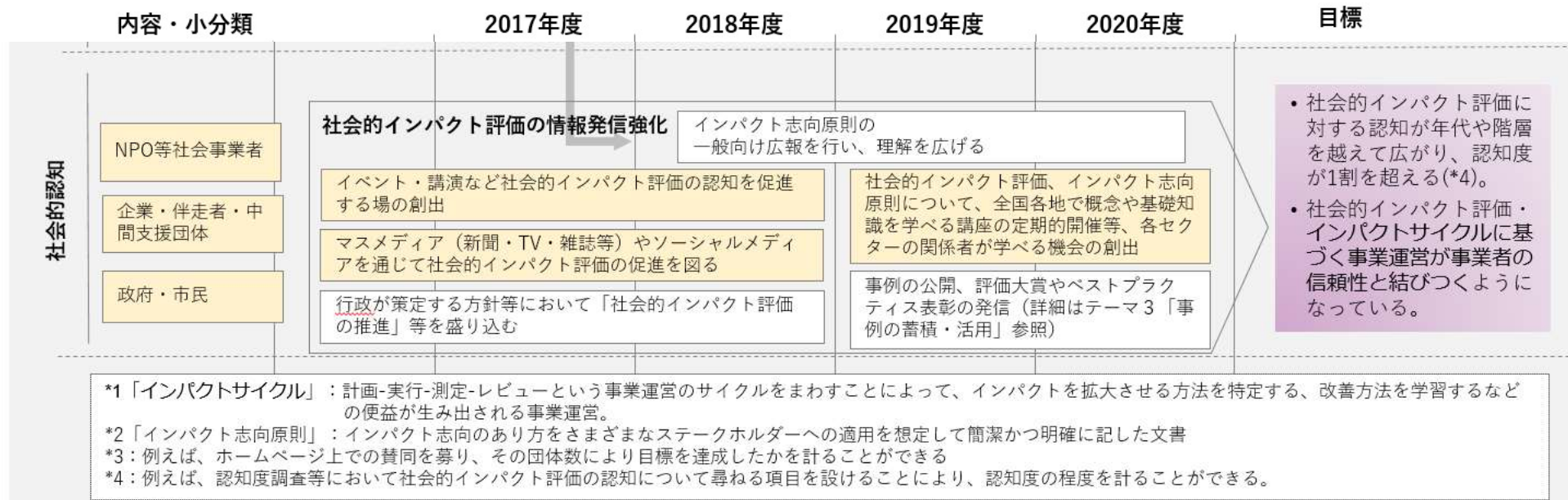
2020年目標

- 社会的インパクト評価に対する認知が年代や階層を越えて広がり、認知度が1割を超える。
- 社会的インパクト評価・インパクトサイクルに基づく事業運営が事業者の信頼性と結びつくようになっている。

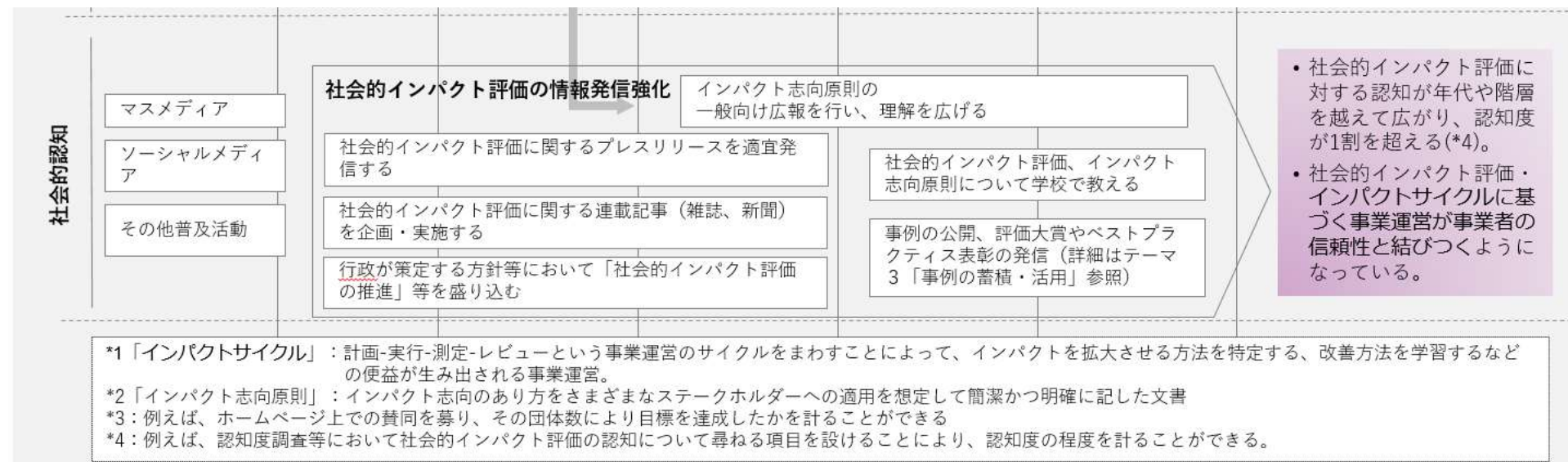
内容・小分類	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	目標
NPO等社会事業者 企業・伴走者 ・中間支援団体 政府・市民	【社会的インパクト評価の情報発信強化】				<ul style="list-style-type: none"> • 社会的インパクト評価に対する認知が年代や階層を越えて広がり、認知度が1割を超える。 • 社会的インパクト評価・インパクトサイクルに基づく事業運営が事業者の信頼性と結びつくようになっている。
			インパクト志向原則の一般向け広報を行い、理解を広げる		
	イベント・講演など社会的インパクト評価の認知を促進する場の創出		社会的インパクト評価、インパクト志向原則について、全国各地で概念や基礎知識を学べる講座の定期的開催等、各セクターの関係者が学べる機会の創出		
	マスメディア（新聞・TV・雑誌等）やソーシャルメディアを通じて社会的インパクト評価の促進を図る		事例の公開、評価大賞やベストプラクティス表彰の発信（詳細はテーマ3「事例の蓄積・活用」参照）		
		行政が策定する方針等において「社会的インパクト評価の推進」等を盛り込む			

2. ロードマップ

【新（WG案）】



【旧（現ロードマップ）】



3. 社会的認知WGが2017年度に目指すこと・やること

目指すこと

日本における「社会的インパクトを求める」空気感の醸成

やること

- 1. 社会的インパクト評価を活用するメリットの可視化**
 - 社会事業者・資金提供者・中間支援組織とWGが協働して、現場のメリットを可視化（業務改善、多様なステイクホルダーとの共通言語など）
 - 他のWGと連携して、可視化したメリットを、認知促進に役立つ伝わりやすいメッセージに落とし込む
- 2. イベント・講演など社会的インパクト評価の認知を促進する場の創出**
 - NPO等社会事業者向け
（例）資金提供者の開催するNPO向けイベントでの講演
 - 企業向け
（例）CSRシンポジウム等での講演・ブース出展、経済団体イベントでの講演
- 3. マスメディアやソーシャルメディアを通じた発信**
 - 取材獲得、関連雑誌での特集、イニシアチブFBでの発信など

4. 社会的認知WGのコアメンバー

コアメンバー

名前	所属
伊藤 佐和	ジョンソン・エンド・ジョンソン 日本法人グループ
山口 智彦	株式会社クレアン
鷺澤なつみ	公益財団法人 トヨタ財団
加藤 剛志	株式会社資生堂
松元雄基	認定特定非営利活動法人カタリバ
有井安仁	一般社団法人全国コミュニティ財団協会
◎山田泰久	NPO法人 CANPANセンター
◎金子陽子	マカイラ株式会社

◎WGリーダー

SIMI

社会的インパクト評価イニシアチブ

Social Impact Measurement Initiative

2020年 VISION

2020年までに、社会的インパクト評価を広く社会に定着させ、社会的課題の解決を促進させます。

～12の目標と38のアクション～

Social Impact Day 2017

人材育成ワーキンググループ (WG)

2017年6月16日

公益財団法人トヨタ財団

1. 人材育成WGの2020年度目標

2020年目標

全国で**1,000名が基礎研修**を修了し、**100名が実践研修**を修了。
社会的インパクト評価に係る**専門講座**が開設。

テーマ小分類 (対象)

- 事業者（経営者・管理者・現場）
- 資金提供者
- 中間支援組織（伴走者）
- 評価専門家

1. ロードマップ（社会的インパクト評価の人材育成）

2017年度

2018年度

2019年度

2020年度

要件整理

以下の事項を整理

- 育成したい人材像
 - (必要な知識・スキル)
 - 育成数の目標
 - 対象地域
 - 実施体制の選定
 - 社会的インパクト評価に関連する既存研修
- ※要件整理に当たっては地域のNPO等も巻き込む

基礎研修実施

※基礎研修＝社会的インパクト評価の理解・実践に有用な基礎的な知識、スキルに関する研修
(既存研修をベース)

研修企画

- カリキュラム
- 教材開発

教材開発の
インプット

講師 育成

実践研修実施

※実践研修＝社会的インパクト評価を実践する上で必要な
応用的な知識・スキルに関する研修

専門講座開設準備(大学等)

専門講座の開設

2. 人材育成WGが2017年度に目指すこと・やること

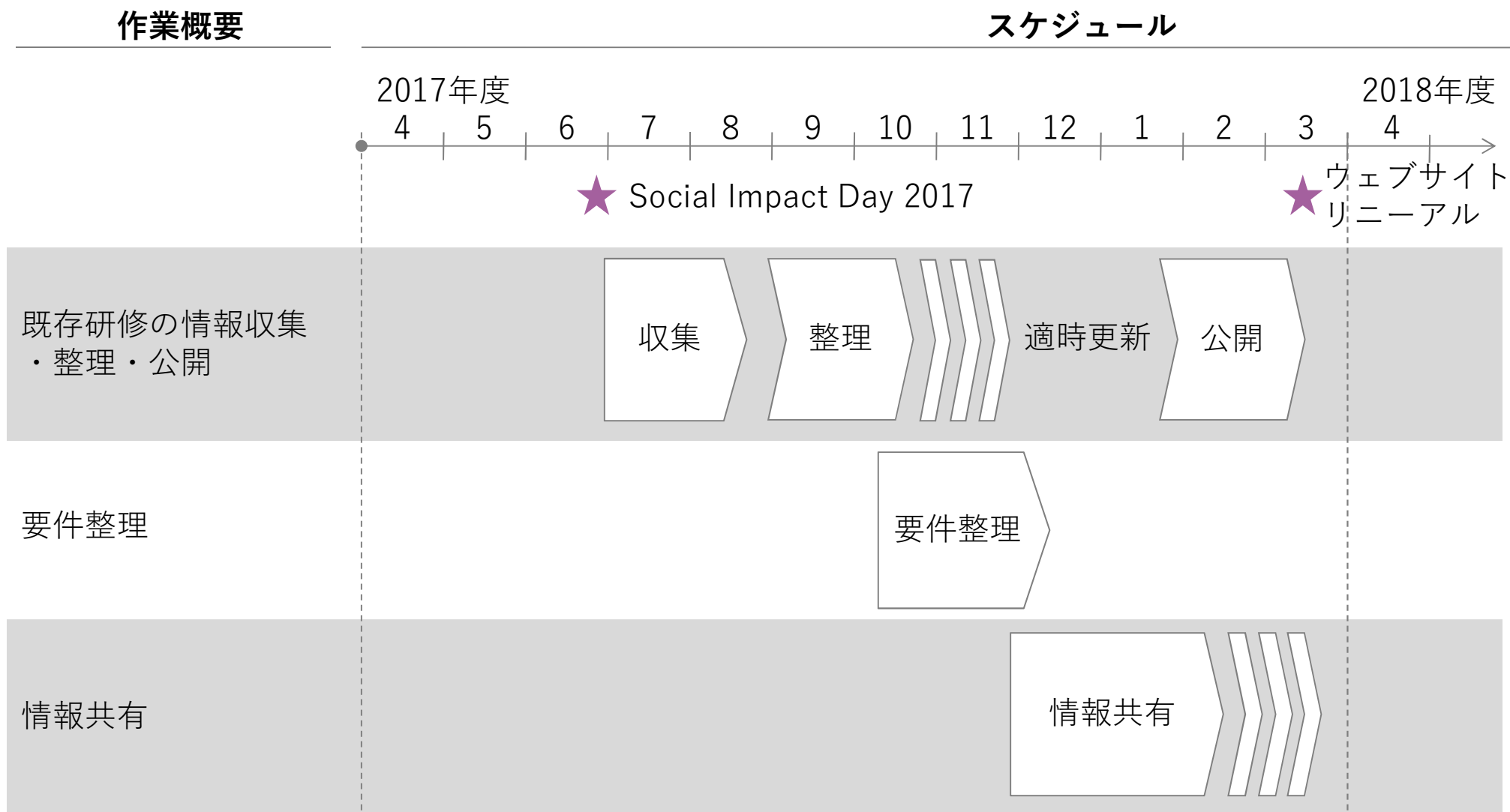
目指すこと

1. 人材育成に必要な研修が明確になっている状態
2. 既存の研修に関する情報の整理・公開

やること

1. **既存の研修に関する情報の収集・整理・公開**
“社会的インパクト評価”に関連する講座や研修の情報を収集し、整理した上でSIMIのウェブサイトに掲載する。
2. **要件整理**
SIMIとして育成したい人材像、知識・スキル、対象地域などを整理する。
3. **イニシアチブ内での情報共有**
人材育成に必要な研修が明確になり、新たに必要な講座や研修についてイニシアチブ内で情報共有を行う。

3. 人材育成WGのアクションプラン



4. 人材育成WGのコアメンバー

コアメンバー

No.	氏名	所属
1	安部 浩	株式会社 山下工芸
2	今田克次	一般財団法人CSOネットワーク
3	◎ 加藤剛	公益財団法人トヨタ財団
4	五井渕 利明	特定非営利活動法人CRファクトリー
5	田中博	参加型評価ファシリテーター
6	津富宏	静岡県立大学
7	土岐三輪	特定非営利活動法人SVP東京
8	原木 英一	一般財団法人 国際開発機構 (FASID)
9	藤枝香織	(一社) ソーシャルコーディネートかながわ
10	源由理子	明治大学
11	毛利 伸也	一般社団法人コ・イノベーション研究所

◎ WGリーダー

SIMI

社会的インパクト評価イニシアチブ

Social Impact Measurement Initiative

2020年 VISION

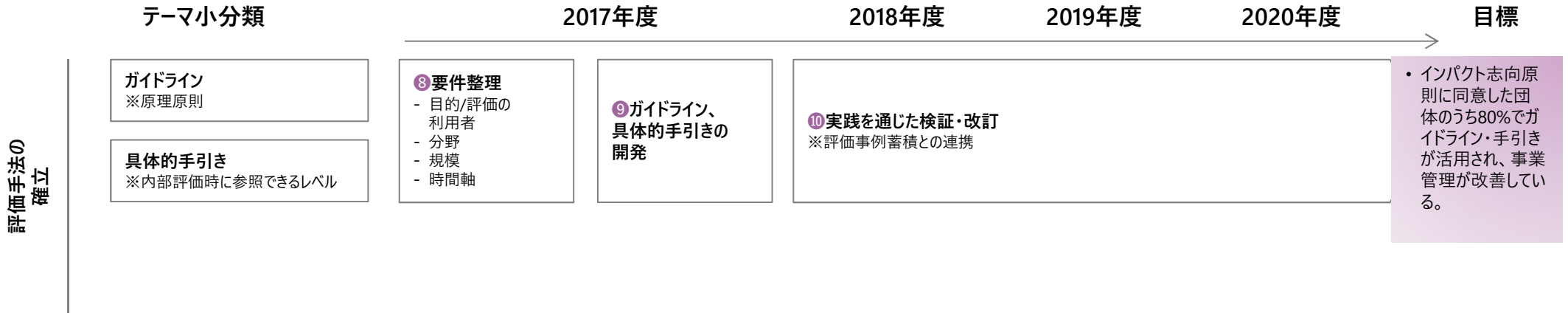
2020年までに、社会的インパクト評価を広く社会に定着させ、社会的課題の解決を促進させます。

～12の目標と38のアクション～

社会的インパクト評価イニシアチブ ガイドラインWG

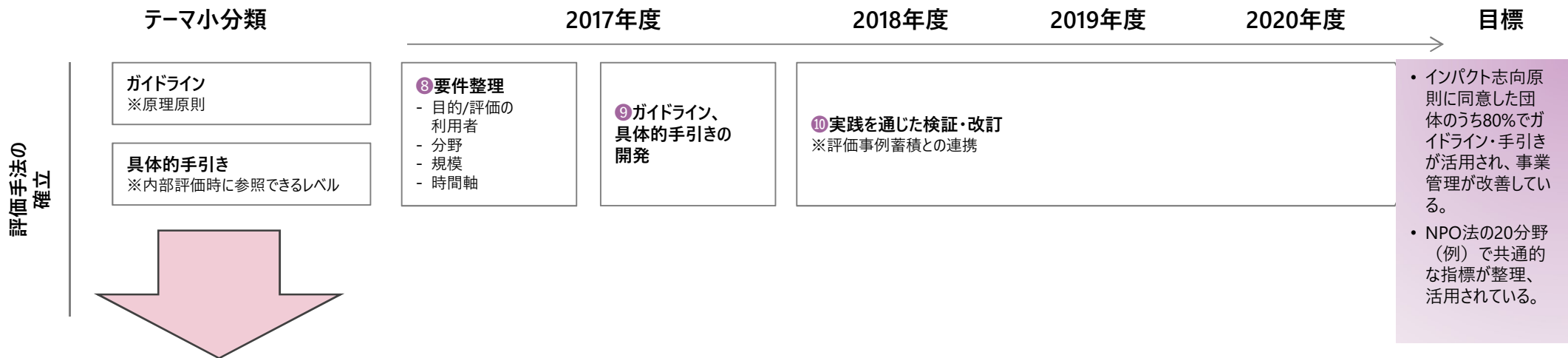
2017年6月29日





2020年目標

インパクト志向原則に同意した団体のうち80%でガイドライン・手引きが活用され、事業管理が改善している。



ガイドラインWGのタスク（2017年度）

- (1) 「ガイドライン」の射程、WGの作業範囲の確認
 - ⇒ WG内での認識の共有
 - ⇒ 「インパクト志向原則」WG、「人材」WG、「アウトカム・指標」作業グループとの役割分担
- (2) 実際の「ガイドライン」「手引き」の作成

「ガイドライン」の射程、問題の整理

用語の問題

- 「社会的インパクト評価」用語の混乱
 - 「インパクト評価」との違い
 - Measurementなのか、あるいはManagement, Maximizationなのか
- ⇒ 改称の検討？

志向原則との関係

- 「（社会的）インパクト志向原則」を達成する手段としてのガイドラインという位置づけ？
- 「志向」原則 vs. 「評価」原則？

事業者、評価者、資金提供者、受益者、（社会的インパクトを享受する）社会全体。。。

誰のためのガイドライン？

実際のガイドライン・手引きの内容検討

評価デザイン、プロセス、報告内容

ガイドラインWGのメンバー

氏名	所属
生田 孝史	富士通総研
今田 克司◎	CSOネットワーク
大澤 香織	日本ファンドレイジング協会
鴨崎 貴泰	日本ファンドレイジング協会
高崎 正有	新日本有限責任監査法人
田中 博	参加型評価ファシリテーター
津富 宏	静岡県立大学
藤田 滋	社会的投資推進財団
松田 典子	日本ファンドレイジング協会
三浦 宏樹	大分県芸術文化スポーツ振興財団
源 由理子	明治大学
やまもと まゆみ	発達障害児支援LOF教育センター
渡邊 清孝	ハンガー・フリー・ワールド

◎WGリーダー

1. 次回WGミーティングは8月4日

1. それまでに共同事務局、全体会を含め、「改称問題」、「志向原則」との関係などについて整理

SIMI

社会的インパクト評価イニシアチブ

Social Impact Measurement Initiative

2020年 VISION

2020年までに、社会的インパクト評価を広く社会に定着させ、社会的課題の解決を促進させます。
～12の目標と38のアクション～

社会的インパクト評価イニシアチブ 事例蓄積・活用WG

2017年7月28日

2020年目標

多様な社会的インパクト評価事例があらゆる地域で
1000事例蓄積され、活用されている

1. 「多様な」とは？

各項目（目的、分野、地域、評価手法、評価の成熟度、組織形態、活用方法等）が幅広く網羅されていること

2. 「蓄積」とは？

事例の各項目等が整理されてデータベースに登録されていること

3. 「活用」とは？

蓄積された事例が評価プロセスの効率化、評価品質の向上、事業改善や効果的な取組の展開、また、その先にある社会的インパクトの拡大等に利用されている状態

2. ロードマップ（社会的インパクト評価事例の事例蓄積・活用）

社会的インパクト評価事例の蓄積・活用



3. 事例蓄積・活用WGが2017年度に目指すこと・やること

テーマ

基盤整備

目指すこと

社会的インパクト評価100事例が公開され、活用できる状態

やること

1. 既存情報の収集

社会的インパクト評価に関する取組みを収集する

2. 事例の要件及び公開レベルの整理

事例として登録する要件・表示する項目等を整理し、状況に応じた項目の公開レベルを設定する

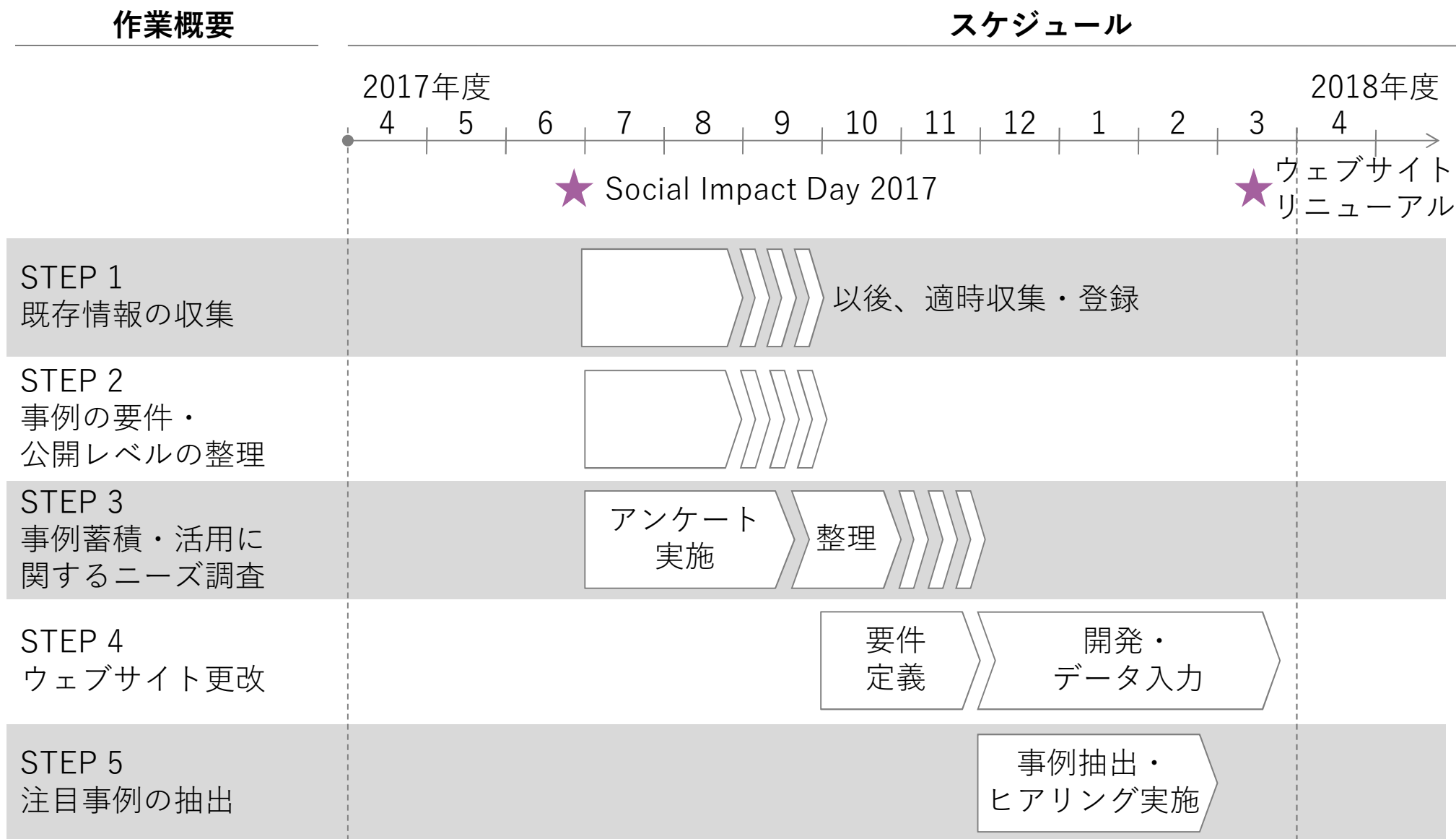
3. ウェブサイトの更改

事例をデータベースに登録するとともに、利用者が欲しい情報を心地よく利用できるようにウェブサイトを変更する

(例) ・ 欲しい情報へ容易にアクセスできる

・ 報告書だけではなく、領域別成果指標を一覧表示できる等

4. 事例蓄積・活用WGのアクションプラン



5. 事例蓄積・活用WGのコアメンバー

コアメンバー

No.	氏名	所属	役職
1	井上 健士	公文教育研究会	社長室調査企画チーム
2	大澤 香織	特定非営利活動法人 日本ファンドレイジング協会	プログラム・ディレクター
3	大沢 望	株式会社大沢会計&人事 コンサルタンツ	取締役
4	落合 千華	ケイスリー株式会社	ディレクター
5	◎幸地 正樹	ケイスリー株式会社	代表取締役
6	高木 麻美	新日本有限責任監査法人	マネージャー
7	塚本 亜紀	日本アイ・ビー・エム株式会社	社会貢献担当部長
8	野中 さやか	富士ゼロックス株式会社	CSR部社会貢献グループ

◎WGリーダー

6. 現在進めていることと皆様へのお願い（7月28日現在）

現在の
進捗状況

- 1. STEP毎リーダーのアサインと工数整理**
5つのSTEP毎メンバーをアサインして進める
- 2. 各STEPの詳細項目の設定とアサイン**
5つのSTEPをさらに詳細項目に分割し、メンバーをアサイン
- 3. 具体的に分類のための分類項目、要件整理を開始**
事例の分類項目や公開要件の幅だし等を実施

皆様への
お願い

- 1. 事例蓄積のお手伝い**
事例収集と整理の作業手伝い
- 2. 事例蓄積の分類項目や要件整理に関する意見**
分類項目や要件整理に関するご意見を募るアンケートへの回答
- 3. Webサイトに関するアンケートのご回答**
現行のWebサイト更改に伴うご意見を募るアンケートへの回答

SIMI

社会的インパクト評価イニシアチブ

Social Impact Measurement Initiative

2020年 VISION

2020年までに、社会的インパクト評価を広く社会に定着させ、社会的課題の解決を促進させます。
～12の目標と38のアクション～

インパクト志向原則ワークショップ

問1：それぞれの立場において「インパクト志向である」状態とはどのような状態ですか？

問2：インパクト志向であるために、必要なことは何ですか？